はいこんちょ。

松之山自治振興会広報紙
Vol. 72
2024年１月10日発行

謹賀新年

明るい年を願って

松之山自治振興会長　樋口　一次

明けましておめでとうございます。日頃から自治振興会の活動に対しまして、地域の皆様、各団体の方々からご協力を頂き、御礼申し上げます。

今年の雪は３ヶ月予報によれば暖冬少雪ということですが、実際どうなるか、予報どおりではなくとも、せめて豪雪と言われない程度の雪であって欲しいと願います。

昨年は７月の梅雨明け後雨がほとんどない時期が１ヶ月以上続き、８月の気温は全国で最も高くなり40度を超える日もあり、農作物にも多大な影響がありました。このような中でも稲作では、農家の皆さんのきめ細かな管理によって、例年と変わらない美味しさと評価されました。お米の等級は見た目などから格付けされる取引流通段階の評価基準で有り、食味評価ではありません。JA 卅町管内　の上位等級比率は11%したが、　松之山検査場では40％弱となり、一番良い結果となりました。さらにJA米・米・食味コンクールの上位１位から３位を松之山地区が獲得しました。今年は天候に恵まれ、良質米が出来るよう願っております。

さて官民が連携して取り組む「移住・定住・交流推進事業」を活用し、まつのやま学園への入学者と移住者の増加を進めております。

学園の教育理念が広く知られるようになり、地域外からの入学生が増加しております。雪里留学の拠点「藤倉ハウス」への入寮者も４月から予定しており、問い合わせも来ている状況です。１月５日から「冬の雪里留学体験ツアー」を２泊３日の予定で計画しております。

松之山温泉では若手経営者が施設のリニューアルを進めるなど、時代にマッチした戦略を展開しています。７月に開幕する第９回大地の芸術祭が７月13日から11月10日の87日間で決まっており、松之山へも大勢の皆様からご来場いただき、松之山温泉にも是非お立ち寄りのうえ日頃の疲れを癒やしていただければと思っています。

また、昨年立ち上げた松之山地域独自の移住定住応援サイト「松之山で暮らそう」の充実を図っていくと共に、松之山地域の情報サイト「松之山ドットコム」の運営も自治振興会で受け継ぐ準備を進めています。両サイトを引き続きご利用頂きますようお願い申し上げます。

高齢化と人口減少が著しい現状ではありますが、これからの世代をしっかり応援することで、新たな活路を見いだすことに力を注いでいかなければと思っております。皆様のさらなるご協力をお願いいたします。

終わりに、皆様が健康で災害のない明るい年でありますことを祈念し、年頭のあいさつと致します。

2024（令和6年度）

まちづくり助成事業

新年度まちづくり助成事業のとりまとめは２月に行います。募集案内は市報２月１０日号に合わせて回覧しますので、応募を予定している団体は事業計画の準備をお願いします。

初めての応募も歓迎します。結構いろんなことができますので、事務局へお気軽にご相談ください。

まちづくり助成事業を活用した、今年度の取り組み例の紹介

縄文ノ和 黒倉「黒倉新そば祭り」

『何かの目標数値を割り込んでしまった』これは内閣支持率、売り上げ目標、玄米一等級比率など、あまり良い響きを感じることのできない表現ですが、『高齢化比率』という言葉においては一転、我々中山間地の集落では至言として力を帯びます。

その高齢化率『60％』を、なんと今年割り込んでしまった黒倉集落の中で、差っ引き40％以上の若手が構成している団体『縄文ノ和黒倉』（じょうもんのわくろくら）は2018年2月にその産声を上げました。

松之山に住む人口を兎にも角にも増やしたい。これが設立からの想いです。5年後、10年後、今の集落機能を維持するためにはどうしても、何としても次世代の人材育成が必要です。そのためにはどんなことでもいい、何かしら人材を呼ぶために面白きことをやってみよう。失敗しても頭かいてごまかして、また毅然と立ち上がったらいいじゃないか。そんな事笑って許してやろう。このような風土が黒倉集落にはあります。

そんな好環境の中、我々は様々な取り組みをしてきました。代表的なものでは『黒倉新そば祭り』でしょうか。これは集落内宿泊施設『醸す森』様との協働イベントでしたが、6年の今年、初めて集落単独で実施することになりました。おんなしょの『いらっしゃいませ！』という気合こもった言葉。おとこしょが汗かいた麺打ち、茹で。そして餅つき。これらが熱気と共に混ざり合い、黒倉集落の年齢世代を超えて大成功となったことを、私はたぶんずっと忘れないと思います。世代をつなぎ止め、さらに後に紡いでゆきたい。これこそがやりたいことだったんだ、と。

そして少しでも若い人にこの土地の温かい気持ちを知ってもらい、へぇここへ住んでみようかなぁ？と感じる所となるように。

縄文ノ和黒倉はさらなる活動を続けてゆきます。

【縄文ノ和黒倉代表　横山仁志】

まつのやまBASE（旧・松之山を遊び尽くす会）

場所は松之山交差点、診療所駐車場の向いR353沿いです。

松之山暮らしの幸せとは、お茶飲みなどを通じて生活文化にも触れられること」そんな想いを共有するコアメンバー数人で、拠点施設・まつのやま基地にふらりと立ち寄ってくれた方々や会員さんらと様々な取り組みをしています。

【ふらっと気軽に立ち寄れる居場所】毎週月曜日と火曜日に〝ぽんせん〟作りや自然食品の販売をしながら、立ち寄ってくださった方々とのお茶飲み時間を楽しんでいます。レンタルできる個室もあり、（月火以外も含め）ちょっとした打ち合わせや集まりなどに活用していただいています。

【こども基地】放課後や長期休暇中に社会的孤立になりがちな現代の子どもたちに、放課後の道草、友だちや地域の大人と過ごすことの楽しさなどを体験させたい！という想いから生まれました。映画の上映会や地元の名水での水汲みに始まり、おなかが空いたら炊き出しに挑戦したり、七夕会や縁日なども開催し、子どもも、見守る大人も、家庭や学校とは違った、暮らしに根付いた交流を楽しんで過ごします。

【みんなの田んぼと畑】子どもたちと安心して土と触れ合うことや収穫を楽しむために、できるだけ自然と共生できる農法にチャレンジしています。また、自分たちが収穫できた作物を使って、多様な生活文化体験（箒やキムチ、糀の作り方を地域の名人に教わる）と、経済活動（お米やポップコーン販売など）を展開する予定です。

まつのやま基地は十一月から冬期休業となり、営業再開は三月頃を予定していますが、レンタルスペース利用、コミュニティスペースでの活動のご相談などは随時受付けしています。いつでもお気軽にお声かけください！

【会長：竹内密浩
事務局：佐藤美保子】

ひのき屋ライブ in 松之山実行委員会
「ひのき屋ライブ in 松之山2023」

実行委員会ができたきっかけは2000年までさかのぼります。1985年、浦田地区に開園した「山村留学センター松之山学園」では、指導の一環で太鼓演奏を行っていました。2000年、施設に勤める指導員とひのき屋のメンバーが旧知の仲だったことから、太鼓の指導及び交流のためひのき屋を山村留学に招待し、松之山地区との交流が始まりました。

ひのき屋は北海道函館市を中心に活動するトラベリングバンドで、結成当初は和太鼓をメインとした演奏をしていましたが、現在はアコギやピアニカ、ウッドベースなど多彩な楽器を使っています。そんな太鼓同志の縁があり、何度か松之山の地でライブ演奏をしていくことになりました。

しかし、2005年に山村留学センター松之山学園は閉園してしまい、ひのき屋との交流は一度途絶えてしまいました。しかしそこから受け継がれた太鼓の伝統は地元小学校を中心に伝わり、今でも松之山地域では太鼓文化が根付いています。

そして2015年、ひのき屋との交流、演奏の迫力が忘れられない、かつての山村留学センターの施設関係者や地域の有志により、「もう一度ひのき屋を呼ぼう」という機運が高まり実行委員会が立ち上がりました。そして再度松之山地域でライブを行うようになり、以降毎年秋にライブイベントを開催しています。

2020年からは新型コロナ感染症の流行でやむなく開催休止が続きましたが、今年は4年ぶりにライブを行うことができました。

実行委員会ではこれからも交流を続け、ライブイベントを続けながら、ひのき屋とのかかわりに賛同できるメンバーを増やして行きたいと考えています。

【実行委員会代表　竹内淳輝】

2023,11,11　４年ぶりのライブ（休養村センターにて）

12月1日開催　第5回理事会からの報告

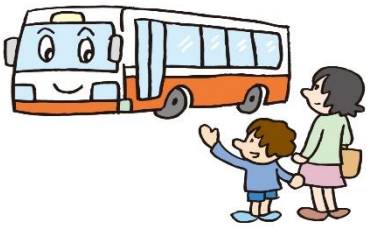
市営バスのディマンド型運行への移行は取りやめになりました。

9月6日の第3回理事会で松之山支所から、市営バスをディマンド型で運行する方式に見直すための検討を進めるという説明があり、本紙10月10号でその旨をお知らせしたところです。

この件に関して今回の理事会で松之山支所から再度説明があり、現状の運行時間や利便性、効率性などを比較検討した結果、一部路線の見直しをすることで現行のまま継続し、ディマンド型への移行は中止すると話しました。

ただ通学時間帯を除く利用者数が極端に低い状況が続いていることから、今後再考の可能性も出てくることを理解していただきたいと付け加えました。

免許証を返納する高齢者が増加していくと想定される中で、地域の交通手段をどのように構築していくべきかは喫緊の課題になりました。



今年度の集落安心づくり事業の拡充加算支援対象組織が決まりました。

集落安心づくり事業の拡充対策として、今年度から始まる加算支援金交付の対象組織が決まりました。今年度活動している27組織の内、10万円加算が6組織（光間、大荒戸、中尾、上鰕池、田麦立、北浦田）、20万円加算が2組織（五十子平、中立山・中原）となります。

この制度は各組織の行政区（集落）の高齢化率と高齢者世帯数が一定の基準を超える場合に対象となり、基本額の10万円に増額されるもので、10万円加算と20万円加算の2段階になっています。また基準となる数値の判定は、前年度の10月1日現在で毎年確認するため、集落のその年の状況により、加算支援の対象になったり外れたりする場合も出てきます。事務局では市から次年度の対象組織が公表されましたら、早い段階でその結果を全組織にお知らせし、次のシーズンの参考にできるようにしたいと考えています。

なお、どのような取り組みをしているかなどは、それぞれお住いの安心づくり組織にお問い合わせください。

十日町高校松之山分校閉校事業実行委員会が発足

11月8日に樋口一次松高同窓会会長を委員長とする第1回実行委員会が開かれ、記念式典の日程を令和6年11月9日(土)松高体育館で開催することなど、今後の進め方を協議決定しました。

早速松高同窓会役員を主体とした式典講演部会、記念誌部会、募金部会など七部会が設置され、式典に向けた活動を開始しました。

後援会にご支援頂いている地域の皆様、地域内はもとより県内外の同窓生の皆様のご支援ご協力をいただきながら、心に残る記念式典にしたいと、主席者一同気持ちを新たにしました。

【実行委員会事務局】

地域に多大な貢献を果たした松高に感謝する会にしたいと話す樋口委員長

12／21　市自治組織連絡協議会で長岡市与板地内のコミュニティセンターを先進地視察

市では令和7年度から、地域の同意が整った地域から順次、公民館のコミュニティセンター(以下　コミセン)化を進めていく方針で、現在水沢地区が市内初のモデル地区として令和7年4月の移行に向け準備を進めています。

今回訪問した長岡市の与板コミセンは、当市が目指しているコミセン化に類似した体制をとっていることから視察地に選定されました。合併後の長岡市には、支所(旧市町村単位)が10箇所あり、今年度までに8支所でコミセン化が進んでいます。与板支所は2番目となる平成25年4月に開設され、今年で10周年を迎え記念事業にも取り組んでいました。

組織には町内会代表、社協、商工会、観光協会、部会代表からなる運営委員会を設置し、4の部会で活動を企画運営しています。また事務局はセンター長と3名の職員(会計年度任用職員)を配置し、コミセンが企画する事業運営と各団体活動の支援など数多くの事業を担っています。職員の賃金や施設の維持管理経費は市が負担し、そのほかに活動費として年間約140万円が交付されますが、他に特別な収入がないので、相当工夫しながらの運営が続いているということです。

当市は自治組織との協働活動により、新たな取り組みの企画や誰でも使いやすい施設となるコミセン化を目指しています。

【事務局】

松之山まちづくり応援寄付金をいただきました。【9/4～11/28 期間】

おところ	お名前	おところ	お名前	おところ	お名前
川口市	樋口五郎様	船橋市	村山賢作様	茅ケ崎市	岡村令子様
江戸川区	涌井タマ様	倉敷市	佐伯マス様	北区	佐藤秀儀様
瀬戸市	志賀尚子様	船橋市	村山重明様	文京区	早川　敏様
川口市	村山和徳様	横浜市	樋口義光様	長泉町	馬場千代子様
				その他	匿名２名様

寄付金額の計	144,000 円

松之山地域への変わらぬご支援に厚く御礼申し上げます。

◇編集後記◇

昨年松之山地域ではいろいろなことがありました。後ろ向きな話題ばかりが目立った感じですが、今年は少し遠慮していた前向きの話題に肥しを与えて育てましょう。何事も初めは幼いものですから。　K.Nakajima

松之山自治振興会　事務局
https://www.facebook.com/hai.koncho
〒942-1406　新潟県十日町市松之山１597-2（松之山支所　地域振興課内）
☎:025-596-3131　fax:025-596-3515　E-mail: m_jichishinkoukai@yahoo.co.jp

【松之山の人口１１月末】　総人口 1,641人（男789人　女852人）　世帯数：770世帯
※数値は１１月末現在です。（総人口　前月比：-４人）